

## 対馬の海

対馬市立豆酩中学校 3年 栗原 美羽

釣りを見に行ったときに友達と一緒にゴミを拾ったことがある。袋は持っていなかったし船の浮き、サンダル、さびた鉄などどう分別すれば良いかも分からないゴミばかりだったので陸地の一箇所に集めたけれど、次来たときには新しいゴミが散らかっているような状態だった。当たり前だけど海は綺麗になったとしても海ゴミはゴミのままだった。燃やせば二酸化炭素が発生するし、対馬には再利用できるような工場はない。

また、下水処理場もないので洗剤や入浴剤がそのまま川から海に流れ込む光景は何回も見た、これが海が綺麗と言われる対馬の裏側での現状だった。

私が住む対馬は対馬海流と黒潮がぶつかる場所でそこにはたくさんのゴミが漂着する。日本でも最も海ゴミが多い場所と言われている。しかもリアス海岸が広がっていて、なかなかゴミの回収が難しいという問題もある。

地域では秋頃、私達がよく泳ぎに行く海や浜などで海岸清掃が行われているが、一トンの袋が三百個もできると聞いた。最終的には船にのせたり引っ張ったりして港で回収し、細かい仕分けなどもあって話を聞く限り大変そうだった。流木などは木が丸ごと漂着しているものなどもあってチェーンソーでいくつかに切り分けて再利用されるそうだ。何人かで運ばないといけない重いゴミもある。

でも最初はゴミが散らかっている様子を見て落胆してしまっても、作業が終わった後の海や帰り道を見て感じられる団結力や達成感は素晴らしいものだ。

私はこれを聞きぜひ大人になって参加してみたいと思うと同時に、ゴミを捨てるのも拾えるのも人間だからそもそも捨てなければいいのに海ゴミ問題がなくなるのは深刻さに気づいていない人が多いからなのでは？と疑問に思った。

福祉の授業で島おこし協働隊の方がこられたときに私たちがゴミを拾うことで海ゴミ問題は解決するのかを考えた。でも班で出た意見はゴミの多くは韓国や中国からのものなのでゴミを拾ってもきりがないという意見が多かった。私もその意見に共感できたし調査された結果七割が韓国や中国のものというデータもあるので事実だった。でも私達にできることは少なからずあるはずだと思う気持ちもあった。例えば、観光客に海にゴミを捨てないように呼びかけたり、今の現状を多くの人に知ってもらう、今は驚くほどプラスチックが日常生活で使われているので自然由来のものを使う、SDGsを実践するなど簡単なことでも探してみると意外とある。

海ゴミ問題は国境を越える、いつか学校のベランダから見える海が生き物がいない海にならないように一人一人が「地球人」として手を取り合っていきたい。